

不登校解決支援センター RAY

辻 様

拝啓

初夏の候、辻様には一段とご健勝のことと承度び申し上げます。

辻様、RAYのみなさま、この度は多大なご支援、ありがとうございました。
不登校でいまま息子は元気に学校へ行けております。

中1の夏休み明けから学校に行かなくなり、復学まで約2ヶ月、
この2ヶ月間見ると短い期間ですが、当時はとにかく長く、苦しい期間
だったと、思い出します。

息子の不登校の原因は、主には勉強についていけなくなったこと、それにより
先生に注意されること（便乗してほかの生徒から高圧にされることもあった）、
結果、自分のプライドが傷ついていたこと、だったと思います。

私としては、勉強についていけないのは自分が勉強に力を入れていること、
（宿題、宿題・自宅学習については、ほとんどやっていた）つまり、本人の努力不足、甘えている、と考えたり、
不登校前からこれを本人にも言っていた。そして、それにより息子と
ぐらう関係も悪化していった。

不登校中は、その努力不足、甘んが「エロ」に目につくように、ますます息子と
ぶつかることも多く、そのため、我々父母も「おの」生活に限界を感じ、支援を求められた。

10月には支援を求め、復学までの10年未満の2日間、この間の支
援を頂きながら、何度も息子と話をした。この際、徹底したこと（これは、
今でも息子の会話で大事にしている部分です）は、①まずは息子に
共感すること、②決して話を投げ出さないこと、です。

これまで私達父母は、息子への共感ができなかった（①）。息子に共
感せず、いまだ親の正論を言う、これにより息子はますます親の言うこと
に耳を傾けなくなり、話さなくなりました。そんな様子を見て、お互い歩み寄るの
ため、「もういい、勝手にしろ」と話を投げ出していたのが常だった（②）

これらの①②を徹底したのをきっかけに、何夜目の息子の話し合いで、（③）
「本当は学校に行きたい」という言葉を引き出すことができています。それは
不思議なようにトントン拍子に、親子、学校とも一本となり、復学を目指すことができています。

我々父母にとり、息子の不登校は、息子の向き合い方を考える、とこれ大至急模索した
と思います。我々には息子への寄り添う姿勢が足りなかった。これまでの子育ての大事な
反省点であり、今後の子育ての戒めとして、この経験の胸に留めおきたいと
強く思っています。

息子の復学はもう3年、このように大事にすることを心がけて頂きたいと、改めて
御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

すけ具

2020年6月7日

